

時代変化の象徴的写真

今日の河北新報（宮城地方一般地方紙）夕刊の「撮っておき」コ・ナ・に、脳性まひ児の写真が家族から投稿されていました。

このコ・ナ・は、家族が乳幼児の写真を子どもの実名と年齢、投稿者の地区、実名、コメント入りの欄で、いつも6、7人の写真が掲載される定期的コ・ナ・です。

写真のコメントは、「脳性まひで寝たきりですが、たくさんの方に支えられてこんなに大きくなりました。」と記載され、経管栄養カテ・テルを着けた3歳の幼児が、前に玩具を置いて、ロ・リングマットで腹這いになって遊んでる（訓練中？）写真。

私の意識していた限りでは、障害児の写真がこのコ・ナ・に載ったのは初めて見ました。

障害のある我が子であっても、親として当然のこととして、かわいい我が子の写真を投稿する時代を迎えたのだなあという思いで見ました。

そうした意味では、この写真は今の障害児の若い親の気持ちを表すであろう象徴的な写真、また、障害児もいるのが、社会として当然！とのこれからの社会のあり方の象徴の写真とも思いながら眺めました。

（2003年04月08日 記）